

事業名称	町家等調査（姫路城下町西部地区）
団体名	姫路・町家再生塾
協働の相手方	まちづくり指導課

目的	町家等の保存・活用が望まれる地区における町家等の賦存状況を把握するとともに、未活用の町家等の活用意向を把握する。その調査結果を市の政策の企画立案に活用していただく他、町家等の流通・活用の機運醸成のために活用する。
内容	姫路旧城下町西部（船場、城西、男山南部）を対象地区として、現存する町家・古民家（「町家等」）を悉皆的に調査し、町家等の賦存状況を把握するとともに、所有者へのインタビューにより未活用の町家等の活用意向を把握する。
事業経過	7月～8月 対象地区での全数外観調査により、訪問調査対象建物を抽出 9月～11月 対象地区での訪問調査 一町家等の所有者・居住者に聞き取り調査を実施 3月17日 市民一般を対象に、報告会「姫路城下町の町並み 現状とこれから」を開催し、調査結果の報告、有識者（下間久美子・國學院大學教授）による講演、町家改修の事例紹介を実施。（会場：城の西公民館）
事業の効果	対象地区における町家等の賦存状況や未活用の町家等の活用意向について詳細な把握を行ったことにより、本事業の実施主体となった当団体、及び実施協力団体である「歴史に出来るまちづくり船場城西の会」及び「ひょうごヘリテージ機構 H20 中西播磨地区」が、それぞれボランティア、地域住民、専門家の立場で協力して、対象地区の町家等の保存・活用・流通に積極的な役割を担っていくための基盤が構築できた。 また、その成果を活用して開催した報告会には市内外から66名の参加があり、対象地区をはじめとする市民における町家等の流通・活用の機運醸成に一定の役割を果たすことができた。
今後の展望	地域住民、専門家、ボランティアが相互に連携しつつ取り組む町家等の保存、活用とそのためでの流通支援の活動を当地域で活性化させるとともに、これをモデルとして市内各地での町家・古民家の保存、活用の取組を拡大する。 また、これらの成果から得られた知見が、今後の都市景観行政に反映されることを期待する。

【実施団体の事業総括・感想等】

今回の調査を通じて、船場川以西の地区には300軒余りの町家等を確認でき、野里（200軒以上確認済）や城東、八代などと合わせて、姫路城周辺には600軒を超える町家・古民家が現存していることが明らかになった。姫路の大切な歴史的資産として、しっかりと後世に受け渡していきたい。

【協働の相手となった所管課の感想等】

今回の調査を通して町家の所有者や地域住民にその価値を伝えると共に、保存・活用に取り組んでいる団体の存在を知って頂けたことは、非常に大きな意義があると考えている。今回の活動が町家等の流通・活用につながり、ひいては歴史的な町並みの未来への継承につながることを願う。